

エージェント AI 「Manus」 調査報告

ChatGPT

実行要約

注記: 指定の Yahoo!ニュース URL は配信面の制約で本文自動抽出が難しかったため、本レポートでは、その記事が提起しているとみられる主要争点を、Manus 公式資料、API 文書、信頼センター、ベンチマーク一次資料、主要報道で突合して検証した。

Manus は、単一の巨大基盤モデルを前面に出す製品というより、複数の既存フロントエンドモデルを束ね、クラウド上の仮想マシン、ブラウザ、コード実行、ファイル操作、外部連携を組み合わせ「実際に仕事を完了させる」ことを狙うエージェント実行レイヤーである、という理解が最も正確です。公式技術文書は、独自のエンドツーエンド基盤モデルを訓練するよりも、フロントエンドモデルの in-context learning を活かす「context engineering」を選んだと説明しており、公開資料でも Manus は自らを「Action Engine」と位置づけています。[1]

技術的に確認できる強みは、タスクごとに分離されたクラウド Sandbox、認証済みサイトにも入れる Cloud Browser、ローカルブラウザ上で操作する Browser Operator、並列サブエージェントで大規模調査を行う Wide Research、そして REST API・Webhook・各種 Connectors まで含む実行面の広さです。一方で、モデルサイズ、パラメータ数、学習コーパスの詳細、現在のモデルルーティング比率など、基盤モデルとしての典型的な透明性情報は公開されていません。[2]

性能面では、Manus 側は GAIA で OpenAI[3]の Deep Research 系より優位だと主張し、2025 年の東京イベントでも「OpenAI Assistant を約 10%上回る」と説明しています。しかし、現時点で私が確認できた公開の独立検証系リーダーボードでは、Manus の検証済みエントリーは見当たらず、現在の GAIA 公開検証で上位にいるのは別のエージェント群です。加えて、TechCrunch[4]の初期ハンズオンでは、

注文・予約・フライト検索などの実行タスクでクラッシュやループ、途中失敗が報告されています。したがって、「研究・レポート・生成物の作成」には強いが、「エラーに厳しい実取引の自律実行」は慎重評価が必要、というのが現時点の妥当な整理です。 [5]

Meta との関係は、噂や単なる提携レベルではなく、2025 年 12 月に買収発表と Manus 公式の「Meta と力を結ぶ」告知が出た、という意味で明確に確認できます。ただし、その後は中国当局がこの取引を国家安全保障・対外投資審査の文脈で問題視し、共同創業者の出国制限、取引審査、さらに 2026 年 4 月の巻き戻し命令へ進みました。したがって、2026 年 5 月 3 日現在の Meta との関係は「実務上は深く進んだが、法的には安定していない」が正確です。 [6]

中国との関係については、曖昧な「中国系らしい」という程度ではなく、かなり具体的です。国内向けの前身/姉妹サービス Monica は北京で生成 AI サービス登録を完了しており、北京市当局の会見でも言及されました。さらに、アリババ[7]の Qwen チームとの戦略提携、既存投資家としてのテンセント[8]・HSG[9]・ZhenFund[10]、国家系メディアの取り上げ、中国当局による越境取引審査まで確認できます。他方で、今回確認した一次資料・主要報道の範囲では、中国政府が Manus を直接保有している証拠や、中国政府と Manus の間でユーザーデータが直接共有されている証拠は見当たりません。確認できるのは「中国政府が規制権限を強く行使し得る」「中国企業との協業が存在する」という事実までです。 [11]

指定記事を起点に見える論点

指定記事が焦点化していると考えられる中心争点は、Manus そのものの技術優劣よりも、「Meta による取り込み」と「中国当局がそれをどう見たか」です。この枠組みは、Manus 公式の Meta 参加告知、Meta の買収計画を伝えた主要報道、中国当局による審査・巻き戻し命令を伝えた続報で、概ね裏づけられます。つまり、指定記事の問題設定は大筋で妥当ですが、それだけでは Manus の技術実体、性能の独立検証、データガバナンス、中国企業との具体的接点までは十分に見えません。そこを埋めるために、本レポートでは技術・性能・実務・資本・規制を分けて見えています。 [12]

技術概要

Manus の公式技術説明で最も重要なのは、「自前の汎用基盤モデルを公開している会社」ではなく、「強い外部モデルを前提に、文脈設計・実行環境・ツール使用・並列化で能力を引き上げる会社」だという点です。共同開発責任者の説明では、プロジェクト初期に“オープンな基盤モデルを使ったエンドツーエンド学習”ではなく、“フロンティアモデル上のエージェント構築”を選択したとされ、平均で入力対出力トークン比が約 100 対 1 になるような、本格的なエージェント運用を前提として KV-cache 最適化まで論じています。公開比較ページでも、Manus は Claude・GPT・その他の複数モデルを自動選択すると説明しており、少なくとも現在の製品像は「単一モデル製品」ではありません。[13]

| 観点 | 確認できた内容 | 留保・未開示点 |
|-----------|--|-----------------------------------|
| 基盤アーキテクチャ | フロンティアモデル上に構築する context engineering 型のエージェント。独自の「Action Engine」を前面に出す。 | パラメータ数、モデルカード、学習コーパスの詳細は公開されていない。 |
| 実行環境 | 各タスクに分離されたクラウド Sandbox VM を割り当て、ファイル・ネットワーク・ブラウザ・各種ソフトを利用できる。 | VM の詳細スペックは非公開で、ヘルプセンターも詳細非開示を示唆。 |
| ブラウザ操作 | Cloud Browser で認証済みサイトも操作可能。加えて、ローカルブラウザ上で動く Browser Operator もある。 | 認証済み操作の安全境界はユーザー運用に依存する部分が大きい。 |
| 大規模調査 | Wide Research では、メインコントローラが複数の完全機能サブエージェントを並列起動する。 | 並列化のコスト制御や品質監査の外部検証は限定的。 |
| API/SDK | 現行 v2 REST API、Webhook、Connectors、Python/TypeScript 例、さらに OpenAI | 公式の専用 SDK 配布より、HTTP API と互 |

| 観点 | 確認できた内容 | 留保・未開示点 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|
| | Responses API 互換の v1 互換レイヤーがある。 | 換レイヤーが中心。 |
| 対応環境 | Web、macOS、Windows、iOS、Android に対応。 | 企業向けのデータ所在地や専用環境構成の詳細は公開不足。 |

この表の根拠は、Manus 公式ブログ・ドキュメント・API 文書・ヘルプセンターに基づきます。 [14]

基盤モデルの内訳については、公開情報に時系列差があります。初期報道では、研究責任者の説明として Claude 3.5 Sonnet v1 と Qwen 系の fine-tune を使っていたと伝えられました。その後、中国市場向けには Qwen のオープンソースモデルと中国国内の計算基盤へ機能を移植するための戦略提携が発表され、現在の公式比較ページでは「Claude、GPT、その他」を自動選択する多モデル構成として説明されています。したがって、Manus の“脳”は固定単一ではなく、時期・用途・地域によって切り替わるオーケストレーション構造と見るべきです。 [15]

API 周りはかなり実務的です。公式は REST API でタスク生成・追跡・結果回収をできるようにし、Webhook ではタスク作成時と状態変化時に通知を飛ばし、署名検証には RSA-SHA256 の 2048-bit 鍵を用いると説明しています。Connectors は OAuth ベースで、資格情報が「Manus へ直接共有されない」と明記されています。v2 は x-manus-api-key ヘッダで認証し、Python と TypeScript の実装例を掲載しているため、少なくとも“API はあるが実務で使いづらい”タイプではありません。 [16]

価格体系は、2026 年 3 月時点のヘルプセンターで、Free が月額 0 ドル、Pro が 20 ドル開始と 40 ドル開始の 2 段、Team が 1 席 20 ドル開始とされています。Free は Agent Mode で 1.6 Lite のみ、Pro/Team は 1.6 Max ・ 1.6 ・ 1.6 Lite にアクセスできます。Team では SSO に加え「Data Training Opt-Out」が明示されている点が重要で、企業導入ではこの項目の契約上の意味を必ず精査すべきです。 [17]

性能評価

GAIA は、推論、マルチモーダル処理、Web 閲覧、ツール使用をまたぐ「General AI Assistants」のためのベンチマークとして設計されたもので、公開検証セットは 165 問です。Manus 側はローンチ期から GAIA 優位を強く訴求しており、東京イベントでは OpenAI Assistant を約 10% 上回ると述べ、Reuters も「DeepResearch を上回ると主張した」と報じています。ただし、現在の HAL 公開リーダーボードは新規モデル更新を一時停止しており、検証済みの上位は HAL Generalist Agent など別系統で、Manus の検証済み掲載は確認できませんでした。[18]

評価

| 軸 | Manus に有利な証拠 | 留保・反証 | 総合評価 |
|----------|---|---|--|
| 外部ベンチマーク | 会社側は GAIA で OpenAI Deep Research/Assistant 系より優位だと主張。東京イベントでも約 10% 優位を説明。 | 現在確認できる独立公開の検証済み GAIA 掲載では Manus が見当たらない。 | 中程度 。主張は強いが、独立再現の公開面が弱い。 |
| 内部評価 | 1.6 Max は二重盲検テストで満足度が 19.2% 以上改善と公式発表。 | これはあくまで社内評価で、第三者再現ではない。 | 中程度 。製品改善の方向性は示すが、客観性には限界。 |
| 実運用の完走率 | 公式事例では調査・資料作成・アプリ構築・データ分析の完走例が多い。 | 主要メディアの試用では注文、予約、フライト検索、ゲーム生成で途中失敗が見られた。 | 用途依存 。研究/生成に強く、厳密なトランザクション実行はまだ不安定。 |
| 品質保証の透 | Wide Research は並列サブエージェントで品質劣化や幻覚を減らす設計。 | 実際にどれだけ幻覚率を下げるかの独立監査値は未公開。 | 中程度 。設計思想は合理的だが、監査指 |

| 評価軸 | Manus に有利な証拠 | 留保・反証 | 総合評価 |
|-----|--------------|-------|---------|
| 明性 | | | 標が足りない。 |

この表は、GAIA/HAL の一次資料、Manus の公式イベント・プロダクト更新、主要メディアのハンズオンレビューを総合したものです。[19]

評価を一言で言えば、Manus の強さは「長い工程をまとめて進める実行経路の太さ」にあり、弱さは「途中で壊れてはいけない現場系タスクの確実性」にあります。これは、公式が強く押し出す調査、スライド、Web 開発、データ分析と、TechCrunch が失敗例として挙げた注文・予約・購買の差を見ても整合的です。したがって、SOTA を断言するより、「高機能な実行系エージェントだが、用途別に成熟度が違う」と読む方が安全です。[20]

実用例とデモ事例

公式のユースケース面はかなり豊富です。App Store と Google Play の説明、公式ブログ、スタートアップ向けページを見ると、Manus はリサーチ、スライド生成、Web サイト/モバイルアプリ構築、画像・動画生成、スプレッドシート分析、データ処理、Slack/Notion 等との接続までを一連の「仕事の完了」として見せています。また、スタートアップ向けページでは 50 超のサードパーティアプリ接続を訴求しています。[21]

| 事例 | 何を実現したか | 実務的な含意 |
|--------------------------|---|------------------------------------|
| Noelle Fleur の花束ビジュアライザー | 顧客が花材・色・サイズを選ぶと、AI preview を生成し、問い合わせや購入までつなぐ自己完結型フローを構築。 | “曖昧な相談”を“構造化されたセルフサービス”へ変換する用途に強い。 |
| Notion MCP の SNS 運用 | 1 プロンプトで 30 本分の投稿を作り、Notion DB へ自動投入し、外部自動 | ナレッジベースを実行基盤に変える典型 |

| 事例 | 何を実現したか | 実務的な含意 |
|------------------------|---|---------------------------|
| | 化へ接続。 | 例。 |
| Notion MCP のトレンド調査 | 毎週の定期タスクで TikTok トレンドを収集し、Notion へ整理。 | 反復的な調査業務の自動化に向く。 |
| HR オンボーディング Web アプリ | Notion の内容を取り込み、進捗管理と FAQ 付きの公開 Web アプリに変換。 | “既存ドキュメント→業務用アプリ”変換能力の実演。 |
| Similarweb 連携 | 権威あるデジタルインテリジェンスを Manus に埋め込み、調査の根拠を強化。 | 外部データで幻覚を抑える方向の実装。 |
| Microsoft Agent 365 連携 | IT 管理者の制御下で Manus を有効化し、市場調査や文書整理に利用。 | 企業統制下の導入路線を示す。 |

この表の根拠は、公式ユーザーストーリーと公式提携発表です。 [22]

特に示唆的なのは、成功事例の多くが「半構造化された知識労働」に集中していることです。花束の見積もり、SNS 投稿の生成、トレンド調査、オンボーディングサイト構築、競合比較表、スライド作成といった仕事では、多少の揺らぎがあっても最終成果物へ辿り着きやすい。他方で、消費者向け購買や予約のように、フォームの一箇所の誤りやページ遷移失敗がそのまま失敗になるタスクでは、主要メディアの試用結果はまだ厳しかった。このギャップは、導入前 PoC で必ず確認すべきです。 [23]

開発組織と資金調達、Meta・中国との関係

Manus の開発組織は、開発元の Butterfly Effect[24] を中心に理解するのが適切です。公式イベントでは、チームの系譜が先行製品 Monica と AI ブラウザプロジェクトから現在の自律型 AI エージェントへ進化したと説明されており、Monica 公式サイトのフッターでも運営主体は同社のシンガポール法人と記されています。2025 年 12 月の公式更新では、事前に 7,500 万ドルを Benchmark[25]主導で調達し、取締役には同社の Chetan Puttagunta[26]が加わり、組織はシンガポール[27]

、東京[28]、サンフランシスコ[29]にまたがる 105 人規模だと説明されています。主要報道では既存投資家としてテンセント、HSG、ZhenFund も挙げられています。 [30]

買収・移転・規制の流れは、技術評価と同じくらい、この製品を理解するうえで重要です。Meta は 2025 年 12 月 29 日に買収を発表し、Manus 側も同日に「Meta と力を結ぶ」と公表しました。その後、2026 年 1 月に中国当局の審査が始まり、3 月には共同創業者の肖弘[31]と季逸超[32]に出国制限がかかり、4 月 27 日には中国国家発展改革委員会[33]が巻き戻し命令を出しました。春の資金調達と夏のシンガポール移転も、この文脈では前提条件です。 [34]

timeline

title Manus・Meta・中国規制の時系列

2025 年 3 月 : Manus 公開ベータ開始

: 中国国内向け Monica が北京で生成 AI 登録

: アリババ Qwen チームとの戦略提携発表

2025 年春 : Benchmark 主導で 7,500 万ドル調達

2025 年夏 : 中国拠点縮小とシンガポール移転

2025 年 12 月 : Meta が買収発表

: Manus 公式も「Meta と力を結ぶ」と告知

2026 年 1 月 : 中国当局が取引審査を開始

2026 年 3 月 : 共同創業者に出国制限

2026 年 4 月 : NDRC が買収巻き戻しを命令

資金調達の正確なクローズ時期は、公式ブログでは「ローンチ前」と書かれる一方、主要メディアは 2025 年春のラウンドとして報じているため、図では「2025 年春」と丸めています。投資家構成とラウンド規模そのものは各ソースで大きくはぶれていません。 [35]

Meta との関係について、確認できる事実は三つあります。第一に、関係は“噂の提携”ではなく買収発表まで進んだこと。第二に、Meta は Manus を自社製品、特に Meta AI を含む消費者向け・法人向け製品へ統合する考えを示していたこと。第三に、Reuters によれば、2026 年 4 月時点で Manus スタッフはすでに Meta のシ

ンガポール拠点へ移っており、巻き戻しにはコード、データ、知財、人的統合の逆回転が必要になる可能性があることです。逆に、私が確認した一次・主要資料では、2025年12月以前に Meta と Manus の間で公表された独立した技術提携は見当たりませんでした。公表されている提携先として確認できたのは、マイクロソフト[36]と Similarweb[37]の方です。[38]

中国との関係は、さらに多層的です。事業・規制・資本の三層に分けると見やすくなります。事業面では、国内向け Monica が北京で生成 AI 登録を完了し、北京市の公式会見でも言及されました。企業面では、アリババ Qwen チームとの戦略提携が確認でき、初期投資家にはテンセント、HSG、ZhenFund が含まれます。政策面では、CCTV による取り上げと、国家発展改革委員会による巻き戻し命令の双方が存在し、支援と統制の両方が見えます。重要なのは、2025年12月の Reuters が「Manus の製品は中国では利用できない」と書く一方で、Monica の中国登録は事実であることです。つまり、“グローバル版 Manus”と“中国国内向け Monica/ローカライズ路線”は区別して理解しないと誤読します。[39]

| 論点 | 確認できた事実 | 現時点の判断 |
|-----------|--|-------------------------------------|
| Meta との関係 | 買収発表、公式の参加告知、Meta 製品への統合方針、スタッフ移転、巻き戻し要求が確認できる。 | 関係は実在し、しかも深い。ただし法的安定性は崩れている。 |
| 中国政府との関係 | 北京での Monica 登録、CCTV 露出、取引審査、巻き戻し命令、出国制限。 | 政府は明確に関与しているが、それは主に規制・産業政策の形で確認できる。 |
| 中国企業との関係 | アリババ Qwen 提携、テンセント /HSG/ZhenFund 投資。 | 強い企業接点がある。 |
| データ共有疑惑 | Reuters は「technology, talent and data」が中国側の審査論点だと報道。だが直接の政府データ共有証拠は見当たらない。 | 疑義の対象にはなっているが、直共有の証拠は未確認。 |

この表の根拠は、公式発表、北京市の一次資料、Reuters 報道に基づきます。[40]

結論だけ先に言えば、「中国政府との関係があるか」という問いには「はい、規制・登録・審査・産業政策の文脈では明確にある」が答えです。他方、「中国政府にデータを共有している証拠があるか」という問いには、今回確認した一次資料・主要報道の範囲では「証拠は見つからない」が答えです。ここを混同すべきではありません。政策支配力の存在と、実データ共有の存在は、まったく別の命題です。[41]

セキュリティ・プライバシー・法的・倫理的論点

セキュリティ面の公開情報は、同種の新興 AI エージェントとしては比較的整っています。Sandbox はタスクごとに隔離された VM で、Zero Trust 原則を掲げ、他タスクやサービス本体へ影響しないと説明されています。Connectors は OAuth で、資格情報は Manus へ直接共有されないとされます。Webhook は RSA-SHA256 署名で検証可能です。Trust Center は SOC 2 Type 1/Type 2、ISO 27001、ISO 27701 の資料を掲載しています。これらは「セキュリティを考えていない製品」ではないことを示します。[42]

ただし、懸念も明確です。Cloud Browser は、ユーザーが自分のメール、CRM、SNS、プレミアム調査ツールなどへログインし、Manus に認証済み操作をさせることを想定しています。これは“便利さの本丸”である一方、誤操作・権限逸脱・プロンプト起因の望まない行為が起きたときの被害半径が大きいことも意味します。さらに、公式ブログ自身が、共同編集では Sandbox が共同参加者に見えるため、意図しないデータ漏えいの可能性があるかと警告しています。[43]

プライバシー透明性は中途半端な部分も残ります。Google Play のデータセーフティでは、個人情報、アプリの情報とパフォーマンス、デバイスまたはその他の ID を収集し、同種データを第三者と共有する場合があると記載され、通信中暗号化と削除リクエストは可能だとされています。一方で、今回の調査では、公式プライバシーポリシー本文の詳細な自動抽出ができず、地域別データ保存先、モデル学習への既定利用、Meta 参加後のデータガバナンス変更点までは一次文書で十分

確認できませんでした。Team プランで「Data Training Opt-Out」が前面に出ていることを考えると、企業利用では契約文面の確認が必須です。[44]

法的・倫理的に最も重い論点は、越境取引とデータ/IP の扱いです。Reuters の法務分析では、中国当局・関係専門家が問題にしているのは、登記地そのものより、技術起源、コア R&D の所在、創業陣の国籍・所在、過去の中国事業、データフロー、オフショア再編のプロセスだとされています。巻き戻しが実行される場合、返金や持分だけでなく、移転済みコード、データ、その他知財の削除まで論点になり得ると報じられています。これは通常の SaaS 審査ではなく、地政学リスクを含んだデューデリジェンスが必要な案件だという意味です。[45]

信頼性評価

| ソース類型 | この調査での主な該当例 | 信頼度 | 使い方 |
|----------------|---|-----|-------------------------------------|
| 公式一次資料 | Manus 公式ブログ /Docs/API/Trust Center、北京市の会見・登録資料 | 高い | 機能、API、公開方針、登録・規制事実の確認に使用。 |
| 主要通信社・大手報道 | Reuters[46]、Bloomberg[47]、Associated Press[48] | 高い | 買収、資金調達、規制、投資家構成、審査経緯の確認に使用。 |
| 独立ベンチマーク一次資料 | HAL/GAIA 公式 | 高い | 現在の独立検証可能なベンチマーク状態の確認に使用。 |
| 主要テックメディア | TechCrunch | 中程度 | 初期の実用性レビュー、実行失敗例、外部コンポーネント情報の補強に使用。 |
| アプリストア/ヘルプセンター | App Store、Google Play、Help Center | 中程度 | 配布形態、価格、データセーフティ表記、クレジット |

| ソース類型 | この調査での主な該当例 | 信頼度 | 使い方 |
|--------------|---------------------|-----|-----------------------------|
| インター | | 度 | 仕様の確認に使用。 |
| SNS・X・コミュニティ | X 投稿や Discord 由来の話題 | 低い | 主要報道や公式情報で裏取りできる場合のみ補助的に参照。 |

この信頼度判定は、同じ事実が「公式」「政府」「通信社」「独立ベンチマーク」で重なっているかを基準にしています。たとえば **Meta** 買収と中国当局の巻き戻しは高信頼、**Sandbox/Cloud Browser/API** の機能説明も高信頼です。反対に、**GAIA** の細かな数値優位や **ARR・トークン総量** のような自己申告値は、公式発表であっても第三者監査がないため、中信頼に留めるべきです。[49]

結論と推奨

結論として、**Manus** は「実在し、かなり高度で、すでに多くの統合・自動化・生成ワークフローを動かせるエージェント実行基盤」です。他方で、それは“独自の透明な基盤モデル企業”というより、“既存フロンティアモデルを束ねて成果物を作る実行レイヤー企業”に近い。性能主張の一部は魅力的ですが、現在公開されている独立検証の面では過剰に断言すべき段階ではありません。**Meta** との関係は買収発表と実務統合の進展まで確認できる一方、中国当局の巻き戻し命令で法的には流動化しています。中国との関係も、企業・登録・提携・規制の各面でかなり実在的ですが、今回確認した資料からは、中国政府への直接データ共有や政府保有を断定することはできません。[50]

導入や投資判断の観点では、次の四点を推奨します。

1. **技術監査**として、モデルルーティング、利用モデル一覧、データ保存先、サブプロセッサ一覧、学習利用の既定設定、**training opt-out** の契約条件をベンダーに文書で確認すること。これは公開資料の透明性が不足しているためです。[51]
2. **性能評価**として、まずは調査、資料生成、社内ツール作成のような“半構造化の

知識労働”で PoC を行い、予約・注文・顧客向け自律実行のような高失敗コスト用途は後段に回すこと。 [23]

3. 法務・地政学監査として、Meta 買収の巻き戻し影響、China nexus、知財移転、データフロー、輸出入/対外投資規制の確認を通常の SaaS 審査より広く取ること。 [52]

4. プライバシー設計として、認証済み Cloud Browser や共同編集は限定的な権限・限定アカウントで使い、秘密情報が入る Sandbox タスクは共有や共同編集を厳格に分離すること。 [53]

総合判定を一文で言えば、Manus は「能力の高さよりも、むしろ能力の広さと実行系の厚さで注目すべき製品」であり、現時点では“最強かどうか”より“どの業務でどこまで安全に使えるか”を見極める対象です。技術的には有望、商業的には急成長、規制的には不安定、そして対中・対 Meta の関係は未解決——これが 2026 年 5 月 3 日時点での最も保守的で、かつ事実に忠実な結論です。各一次資料は本文の引用リンクから直接たどれます。 [54]

直近の対 Meta・対中規制報道は、以下の主要ソースから追えます。 [55]

navlist 直近の主要報道

turn8news25,turn39news36,turn30news32,turn30news30

[1] [13] [36] [50] <https://manus.im/blog/Context-Engineering-for-AI-Agents-Lessons-from-Building-Manus>

<https://manus.im/blog/Context-Engineering-for-AI-Agents-Lessons-from-Building-Manus>

[2] [10] [14] [24] [42] <https://manus.im/blog/manus-sandbox>

<https://manus.im/blog/manus-sandbox>

[3] [35] [54] <https://manus.im/blog/manus-100m-arr>

<https://manus.im/blog/manus-100m-arr>

[4] [18] [19] [27] <https://hal.cs.princeton.edu/gaia>

<https://hal.cs.princeton.edu/gaia>

[5] [30] [48] <https://events.manus.im/ja/events/manus-tokyo-event>

<https://events.manus.im/ja/events/manus-tokyo-event>

[6] [12] [31] [33] [34] [40] [49] <https://manus.im/ja/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>

<https://manus.im/ja/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>

[7] [28] [51] <https://manus.im/compare/manus-vs-claude-code>

<https://manus.im/compare/manus-vs-claude-code>

[8] [20] <https://manus.im/blog/manus-max-release>

<https://manus.im/blog/manus-max-release>

[9] [17] <https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

<https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

[11] <https://www.reuters.com/technology/artificial-intelligence/chinas-manus-ai-announces-partnership-with-alibabas-qwen-team-2025-03-11/>

<https://www.reuters.com/technology/artificial-intelligence/chinas-manus-ai-announces-partnership-with-alibabas-qwen-team-2025-03-11/>

[15] <https://www.businessinsider.com/manus-ai-china-agent-hype-deepseek-2025-3>

<https://www.businessinsider.com/manus-ai-china-agent-hype-deepseek-2025-3>

[16] <https://open.manus.im/docs/v2/authentication>

<https://open.manus.im/docs/v2/authentication>

[21] [32] [47] <https://apps.apple.com/jp/app/manus-ai-%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%82%B9-%E6%B1%8E%E7%94%A8ai%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%88-%E8%87%AA%E5%8B%95%E5%8C%96/id6740909540>

<https://apps.apple.com/jp/app/manus-ai-%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%82%B9-%E6%B1%8E%E7%94%A8ai%E3%82%A8%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%88-%E8%87%AA%E5%8B%95%E5%8C%96/id6740909540>

[22] [23] [26] [46] <https://manus.im/blog/manus-user-story-noelle-fleur>

<https://manus.im/blog/manus-user-story-noelle-fleur>

[25] [29] [43] [53] <https://manus.im/docs/features/cloud-browser>

<https://manus.im/docs/features/cloud-browser>

[37] [41] <https://www.reuters.com/technology/artificial-intelligence/beijing-boosts-ai-startup-manus-china-looks-next-deepseek-2025-03-21/>

<https://www.reuters.com/technology/artificial-intelligence/beijing-boosts-ai-startup-manus-china-looks-next-deepseek-2025-03-21/>

[38] <https://www.reuters.com/world/china/meta-acquire-chinese-startup-manus-boost-advanced-ai-features-2025-12-29/>

<https://www.reuters.com/world/china/meta-acquire-chinese-startup-manus-boost-advanced-ai-features-2025-12-29/>

[39] https://jxj.beijing.gov.cn/jxdt/gzdt/202503/t20250321_4040518.html

https://jxj.beijing.gov.cn/jxdt/gzdt/202503/t20250321_4040518.html

[44] <https://play.google.com/store/apps/details?hl=ja&id=tech.butterfly.app>

<https://play.google.com/store/apps/details?hl=ja&id=tech.butterfly.app>

[45] [52] [55] <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/china-blocks-foreign-acquisition-ai-startup-manus-2026-04-27/>

<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/china-blocks-foreign-acquisition-ai-startup-manus-2026-04-27/>